



Nitto × Accenture

R&D 研究開発による

デジタルポスターセッション

VIDEO TRANSCRIPT

日東電工 取締役 専務執行役員 CTO 三木陽介：

このポスターセッションは R&B が日々どういうテーマで活動しているのか、それをどういう市場に展開しようとしているのか、そして今どういうところに困っているのか、経営幹部だけでなく、事業執行隊の幹部、そしてグローバルの幹部と共有することで、技術開発の方向性を軌道修正をしたり、いかにして事業化を加速していくか、あるいはお客様にとっての訴求点をどういうふうに考え直していかないといけないのか。様々な議論をする場としてポスターセッションをもうけております。

この 2 年前からのコロナの影響で海外のメンバーが日本に物理的に来れなくなったというところで、R&D の活動を加速させたいという思いから、デジタルツールを使ったこのバーチャルポスターセッションを何とかやり切りたいというところで今に至ります。

日東電工 全社技術部門 技術知財戦略本部長 本村弘則：

対面とは全く違う活用の仕方、全く同じではないけど、良いところを上手く横展開できるようにするとか。逆に我々の知見だけではできないところを、アクセントリアさんがアドバイスをしていただきながら進められたので、時代にマッチした動きが我々の内部でもできるようになったという意味でも、よかったかなと思います。

アクセントリア インダストリー X 本部 プリンシパル 汪志成：

今回のバーチャルポスターセッションは Teams というマイクロソフトのツールの上で作ったソリューションなのですが、チームズだとみなさん使い慣れたツールなんで、その上で新しいことを、体験を提供しつつも既存のツールの機能をフル活用するような感じで UX を検討していました。実際ポスターのファイルを見たりとか、展示の方とコミュニケーションをするときは、実際チームズのチャットを使ってコミュニケーションを取るとか。そういう上手いところで既存のツールの体験と新しいバーチャルポスターセッションの体験を組み合わせると全体的な体験を作り上げたというところです。

日東電工 全社技術部門 技術知財戦略本部長 本村弘則：

逆に海外のメンバーの参加を高めることもでき、国内のエリアの事業関係者も参加できるというところで、人数規模的には 5 倍の参加者が参加できるということになりましたので、広く意見を招集できる機会になったかなと思っています。

これはまずやってみようという形なので、もっと本当にバーチャルを日東内で、あるいは日東の外部でもうまく活用するためにどうあるべきかっていうのは、いろんな形でチェンジしながら作っていかないといけないというのを改めて感じる機会でもあったかなとは思っています。

日東電工 取締役 専務執行役員 CTO 三木陽介：

今後はそのハイブリッドは大事なキーワードだと思ってまして、バーチャルでできることとできないところ。当然できないところっていうのは、いろんな工夫の余地はあると思いますので、「真の価値」を体感してもらえそうな形に近づけていけたらなと思っています。

アクセントリア ソング本部 シニア・マネジャー 井上洋介：

単なる「お客さま体験」カスタマーエクスペリエンスだとかデジタル化とかは手段でしかなくて、その結果として社員が変わるだとか、社員が相対するお客さんを変えていけるとかの先にいる最終消費者を変えていく、生活者を変えていくみたいなのところにフォーカスをしていて、それを一過性のものにしてはいけないと思うんですよね。

日東電工 全社技術部門 技術知財戦略本部長 本村弘則：

DNA という意味合いでは、こういうコロナ禍の時代の変化に対して、どう我々のイノベーションを展開できるか、いろんな立場で考えようという意味でバーチャルセッションを設けるという動きを俊敏に行うというのが日東のイノベーションであり DNA かなと思います。



日東電工 取締役 専務執行役員 CTO 三木陽介：

R&Dの人間が真新しいことをお客さんに提供することだけがイノベーションとは思ってなくて、価値を提供することが本当のイノベーションだと考えております。Nittoは様々な技術、コア技術も持っています。成熟した完成された技術の組み合わせで、新しくお客さんに価値を提供できるっていう意味でも、R&D目線だけでなく、事業部、一番お客さんに面してる事業執行隊とか海外のメンバーが、その生の声を拾ってきて、新しい技術に既存の技術をどう加えるかというところがあれば、さらに価値のあるイノベーションが生まれるというふうに思いますので、そういう意味でもこのポスターセッションという位置付けは非常に大事だと思っています。

Copyright © 2022 Accenture
All rights reserved.

Accenture and its logo
are registered trademarks
of Accenture.